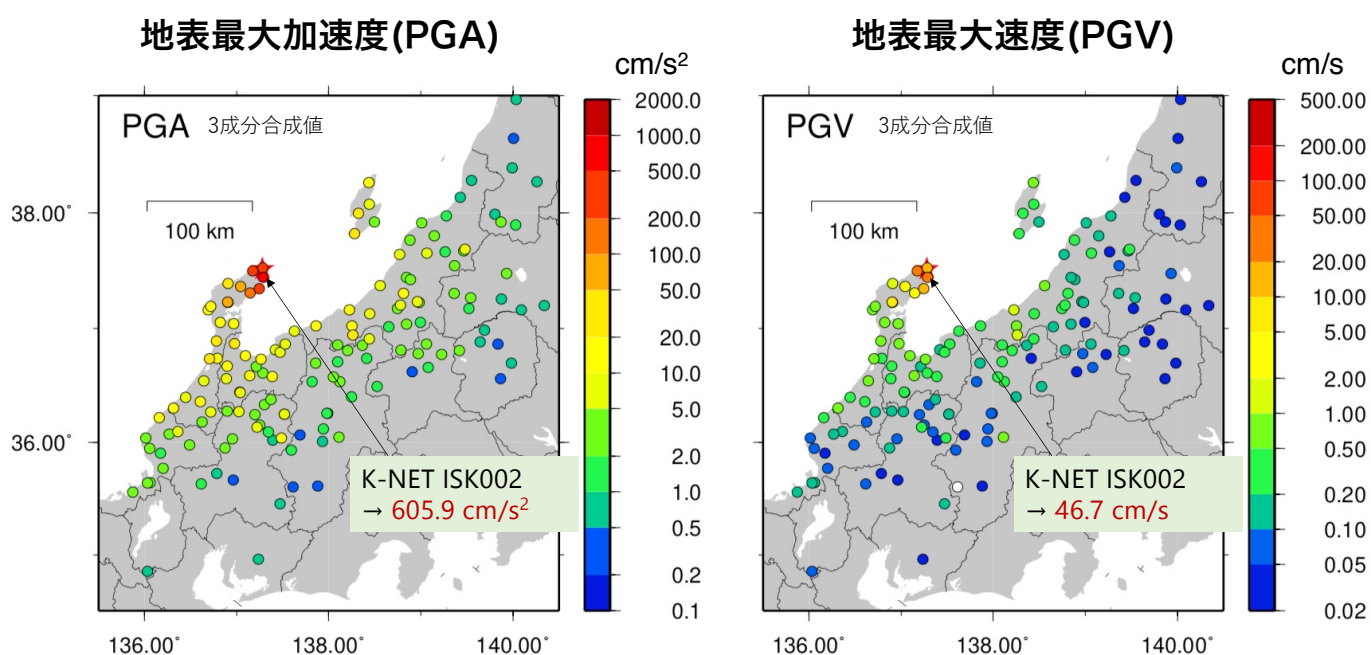


観測された強震動データ (防災科研K-NET, KiK-net)

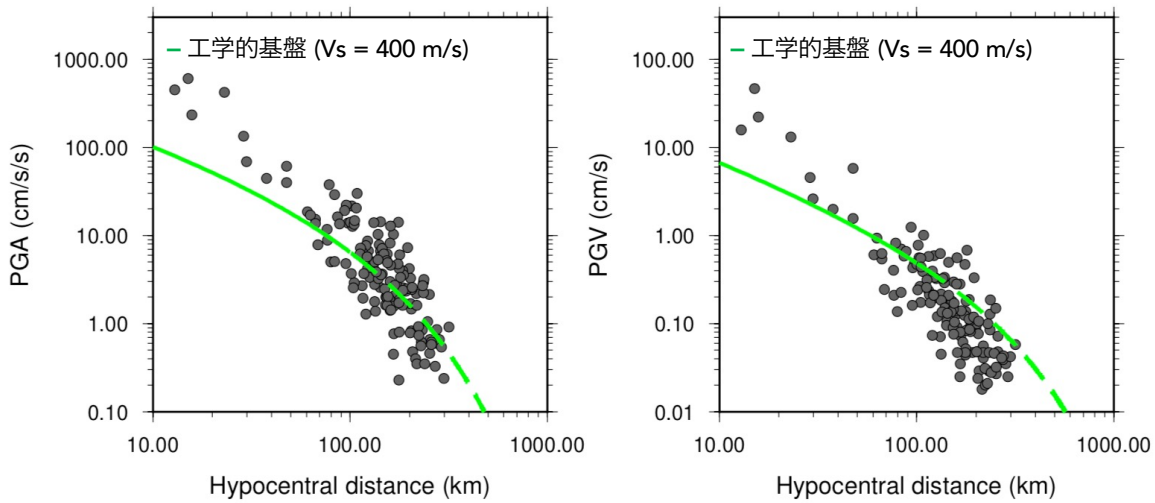
(国研)建築研究所 国際地震工学センター

2022/6/22

防災科学技術研究所K-NET, KiK-net



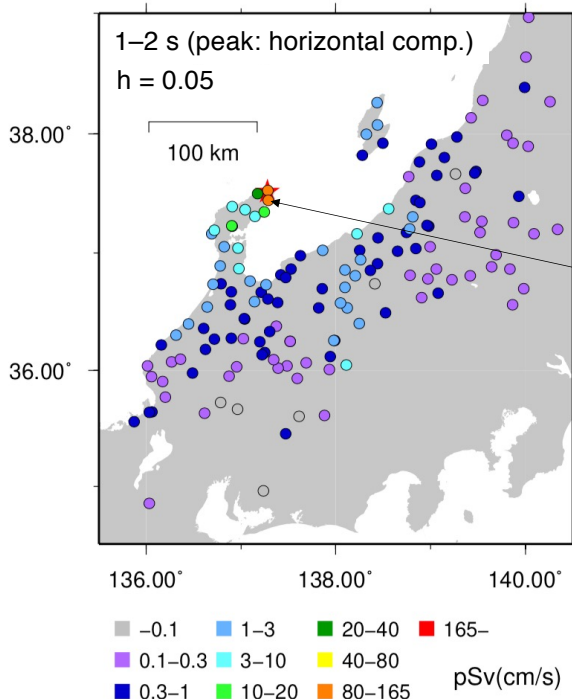
司・翠川 (1999) の距離減衰式との比較



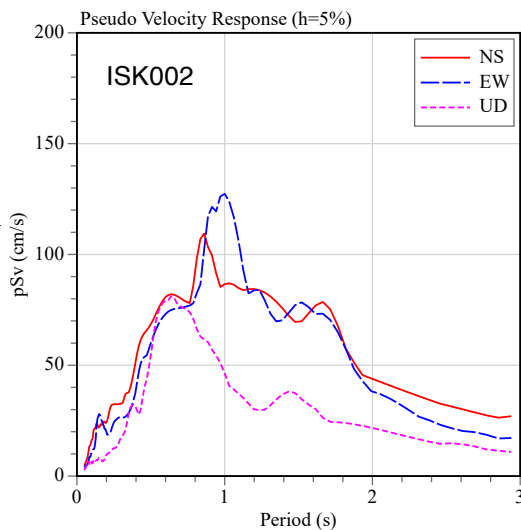
→ 震央距離20km以内（震源距離25km）以内に4点の記録が存在。これらのPGA・PGVは過小評価。

※ 横軸は防災科研Hi-netの自動処理震源（速報値）に基づく「震源距離」であり、「断層最短距離」への変換は行なっていません。
 ※ 予測式における震源深さは12.8km（Hi-net自動処理震源），地震タイプは「地殻内地震」に設定しています。
 ※ 司・翠川（1999）の式は距離100kmまでを対象に作成されたものです。100km以遠は参考値として点線で表記しています。

擬似速度応答スペクトル (pSv; 1-2 秒間のピーク)



K-NET観測点ISK002（正院）で最大



© ViewWave

まとめ

- 今回の地震では、石川県能登地域において震度4以上の地震動が観測された。
- 地表最大加速度・最大速度ともにK-NET観測点ISK002（正院）において観測。同地点における震度相当値は6弱である。
- 周期1-2秒の擬似応答スペクトルのピークは K-NET観測点ISK002（正院）において最大であった（ <165 cm/s）。

謝辞:

本資料の作成にあたり、国立研究開発法人防災科学研究所の強震観測記録（K-NET, KiK-net）を使用しました。
<https://www.doi.org/10.17598/NIED.0004>

震源位置に関する情報は、防災科学研究所Hi-netの自動処理震源を参照しました。
速度応答スペクトルの算出には、大崎 (1994)の計算コードを使用しました。
作図にはGeneric Mapping Tools (GMT: Wessel and Smith, 1998)を用いました。